

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 20 日現在

機関番号：32206

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2012～2015

課題番号：24689074

研究課題名(和文)キネステティック長期的看護支援効果ランダム化比較試験と新しい実践的ケアモデルの構築

研究課題名(英文)Effectiveness of nursing support applied Kinaestetik/Kinaesthetics in the long-term care setting and new practical care model

研究代表者

只浦 寛子(Tadaura, Hiroko)

国際医療福祉大学・その他の研究科・教授

研究者番号：40363733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 20,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究からキネステティックは廃用症候群予防に一定の影響がある可能性が改めて示唆された。動きの支援前後比較によると、キネステティックは痛みの上昇レベルを抑制する可能性があり、時間経過を経て痛みのレベルは相対的に低下していく可能性が示唆された。動きの感覚は筋緊張低下に影響がある可能性が改めて示唆された。看護師の動きの技術レベルは、キネステティック実施度によって変化する可能性も示唆された。キネステティック群の技術の特徴は患者の身体各部に対して3次元に矢状面・水平面・前頭面を円運動するスパイラス動作軌跡を交互に行うことから、ベッドサイドでの動きの支援がリハビリテーションとなっていることが改めて考察された。

研究成果の概要(英文)：This study shows that Kinaesthetics has the potential to prevent disuse syndrome. Kinaesthetics can effectively decrease pain level after movement support compares to common movement supports although learning system of sense might have reduced as mild change with the passage of time. Skill level of nurses had observed a different whether nurses use Kinaesthetics. Movement support using Kinaesthetics involves spiral, 3-dimensional motion and can be used for rehabilitation in a clinical setting.

研究分野：医歯薬学

キーワード：キネステティック Kinaestetik Kinaesthetics リハビリテーション看護 慢性期看護 ケアモデル

1. 研究開始当初の背景

24 時間直接的ケアサービスの提供を行う看護ケアの成果として、セルフケア能力向上やリハビリテーション効果をもたらすといわれるキネステイクが、現在、看護や介護の分野で注目されている。キネステイク Kinästhetik (独語表記) Kinaesthetics (英語表記) とは、ギリシャ語の動きを意味する Kinesis と感覚を意味する aisthesis にその語源を成す。1974 年に初めて重症心身障害児教育に用いられたことをきっかけに、1980 年代からドイツ・スイス・オーストリアで広く看護・介護分野で応用されるようになった。

キネステイクの概念は 6 つの要素、インタラクション、機能解剖、人の動き、力、人の機能、環境からなる。この概念を個別に対象者の身体的・心理的・社会的状態に応じて応用してアセスメントし、動きの支援、感覚の支援、相互ノンバーバルコミュニケーションの支援に应用することが臨床応用の主な目的とされている。キネステイクの概念と技術には行動サイバネティクスによるフィードバックシステム、人間性心理学による相互作用および言語的・非言語的コミュニケーション、モダンダンスによる姿勢に関する概念を基本としている。(Hatch Frank et al, Kinästhetik, 1990)。キネステイク概念を応用した動きの看護技術と従来の技術の大きな差異は、能動的に動く主体として介助される側が動きの能力を最大限引き出され、フィードバック感覚と一方向ではない相互作用によるコミュニケーションの支援が同時に充足されることで、協調的な統合の感覚が双方に生まれ、同時に介助される側の中に学習過程を生むという点である。従来の動作支援技術はバイオメカニクスの視点でみると矢状面を主に用いるが、キネステイク概念を応用した動きの支援は、矢状面・水平面・前頭面を 3 次元として広く用い、スパイラルな人の自然な動きを再現するような支援が中心である点も異なっている。自然な人の動きは身体各部、頻繁にスパイラル軌跡を示すことが分かっており (日本看護技術学会, 2008, 2009, 2010), この点からキネステイクは人の自然な動きを再現する技術を具現化していることがわかっており、只浦らは過去に日本褥瘡学会、日本キネステイク研究会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護技術学会、国際学会等で多数報告をしてきた。またキネステイクの動作支援技術には、介助される側の身体荷重を介助する側が筋肉で引き受けるリフティング技術がみられないことも大きな特徴である。患者や利用者が自分の筋肉や骨等を能動的に自然に使うプロセスと学習がキネステイクの技術の中に入っており、これが安楽でセルフケア能力や身体機能を維持・増進すると言われ、長期的には小児から高齢者まで慢性疾患を抱える人々の体力低下や廃用を予防する

こと、自己効力感や QOL の向上が期待されている。キネステイクの長期的な身体効果に関しては効果があるとされながら科学的実証がなされていず、幅広い対象者への実証的研究が、現在、国内外の重要課題となっている。

2. 研究の目的

新しい概念キネステイクに関し、disability を抱える患者を対象として、健康増進作用を多面的に実証し、そのエビデンスに基づく新しい実践的ケアモデルを構築することを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

disability を抱える患者を対象としキネステイク介入群とコントロール群それぞれの患者に対し廃用症候群関連項目の計測、ADL 評価、痛み、QOL、疾患、治療、対象特性を測定し、各群の看護師に対しては痛み、QOL、動きの技術レベルや専門家としての精神的充実感を測定し、キネステイクの長期的身体効果について患者および看護師のアウトカムについて明らかにする。

4. 研究成果

本研究からキネステイクは廃用症候群予防に一定の影響がある可能性が改めて示唆された。動きの支援前後比較によると、キネステイクは痛みの上昇レベルを抑制する可能性があり、時間経過を経て痛みのレベルは相対的に低下していく可能性が示唆された。動きの感覚は筋緊張低下に影響がある可能性が改めて示唆された。看護師の動きの技術レベルは、キネステイク実施度によって変化する可能性も示唆された。キネステイク群の技術の特徴は患者の身体各部に対して 3 次元に矢状面・水平面・前頭面を円運動するスパイラス動作軌跡を交互に行うことから、ベッドサイドでの動きの支援がリハビリテーションとなっていることが改めて考察された。新しい実践モデルは臨床応用、個人の学習過程、組織の発展過程の促進に展開でき

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
〔雑誌論文〕(計 5 件)

ヨハン・ドニス、只浦寛子：遷延性意識障害者と家族や医療チーム、そして社会との統合、日本キネステイク研究会誌、1-2、第 5 巻 1 号、2014

只浦寛子：キネステイク (Kinaesthetik/Kinaesthetics) 看護学 Yesterday, Today, and Tomorrow, 日本キネステイク研究会誌, 4(1), 15-21, 2013

三浦愛香, 只浦寛子: キネステティック概念を応用した看護支援が高齢者の転倒要因の課題解決に寄与する可能性に関する一考察, 日本キネステティック研究会誌, 4(1), 1-4, 2012

蛇石由衣, 只浦寛子: 体位と覚醒に関する一考察, 日本キネステティック研究会誌, 3(1), 1-7, 2012

只浦寛子: 第4章 各論: がん患者へのケアとエビデンス 2. 患者の安楽の追究とエビデンス ポジショニング, 「がん看護」増刊号 南江堂, 17(2), 281-284. 2012

[学会発表](計20件)
HTadaura, KSakaki, HMonma, NFeldmann, SKnobel, SBartholomeyczik, RNagatomi: Nursing outcomes of Kinaesthetik/Kinaesthetics, Nursing World Conference 2016, Dubai, 2016.10.

HTadaura, KSakaki, HSuzuki, HMonma, RNagatomi: Kinaesthetics outcomes for the elderly in acute hospital: a prospective intervention study, 15th Euro Nursing & Medicare Summit, Roma, 2016.10.

HTadaura, KSakaki, HSuzuki, HMonma, RNagatomi: Kinaesthetics outcomes for the elderly in a long term rehabilitation care: a prospective intervention study, 15th Euro Nursing & Medicare Summit, Roma, 2016.10.

只浦寛子, 榊久美子: キネステティック群とボディメカニクス群における SOPMAS のスコア, 第18回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2016.9.

只浦寛子: ドイツのキネステティックトレーナーの体位変換動作解析 - 水平移動 -, 第18回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2016.9.

HTadaura: CLINICAL INVESTIGATION OF THE RELATIONSHIP BETWEEN KINESTHESIA AND NURSING PRACTICE FOR BOTH THE ELDERLY AND NURSES IN ELDERLY CARE SETTINGS IN GERMANY AND AUSTRIA, 18th International Conference on Cancer Nursing (ICCN), Panama, 2014.9

HTadaura, KTokunaga: Why subconscious awareness of nurses is important in care setting?, 1st Asian Oncology Nurse Conference, 2013.11

HTadaura, NFeldmann, SBathoromeyczik et al: A CLINICAL INVESTIGATION OF EFFECTIVENESS FOR PAIN DECREASE IN NURSING

PRACTICE BASED ON "KINAESTHETICS", 17th international conference on cancer nursing (Prague), 2012.09

HTadaura: EFFECTIVENESS FOR EDEMA USING NURSING CARE BASED ON KINAESTHETICS CONCEPT, the 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies (Yokohama, Japan), 2012.09

HTadaura, KTokunaga: NEW INNOVATIVE CARE: KINAESTHETICS AND ITS OUTCOMES, The 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies (Yokohama, Japan), 2012.09

HTadaura, ASato, EUeda, TSaita, TKikuchi: Connecting nursing theory with practice through education based on Self-Care Deficit Nursing Theory and utilization of nursing record, 12th IOS World Congress (Luxembourg), 2012.05

HTadaura, NFeldmann, SBathoromeyczik, et al: Better QOL for the elderly by Kinaesthetics employed in nursing practice, 12th IOS World Congress (Luxembourg), 2012.05

伊東菜、只浦寛子: 廃用症候群に関する日本の看護研究動向と動向の要因、その課題, 第26回NPO法人日本リハビリテーション看護学会学術大会, 岡山, 2014.11

只浦寛子, 國井享奈: 体位変換と移動移送の介助におけるドイツと日本・中国の基礎看護教科書比較, 第27回NPO法人日本リハビリテーション看護学会学術大会, 埼玉, 2015.11

岩淵起江, 只浦寛子, 國井享奈: 人の自然な動きのパターン 臥位, 水平移動の動作解析, 第27回NPO法人日本リハビリテーション看護学会学術大会, 埼玉, 2015.11

只浦寛子, 岩淵起江, 國井享奈, 岡田美紀: 人の自然な動きのパターン - 臥位, スパイラル上方移動の動作解析 -, 第3回看護理工学会学術集会, 京都, 2015.10

岩淵起江, 只浦寛子, 國井享奈, 岡田美紀: 人の自然な動きのパターン - 臥位, パラレル上方移動の動作解析 -, 第3回看護理工学会学術集会, 京都, 2015.10

國井享奈, 只浦寛子, 岩淵起江, 岡田美紀: ボディメカニクスとキネステティック(パラレル)動作介助による車椅子座位から立位までの痛みと面圧中心の比較, 第3回看護理工学会学術集会, 京都, 2015.10

只浦寛子:国際的 SOPMAS (Structure of the Observed Patient Movement Assistance Skills) 質的・量的ガイドラインの開発, 第 5 回国際医療福祉大学学会学術大会, 栃木, 2015.8

只浦寛子:キネステティックの定義・目的およびコンセプトと学習, 第 23 回日本がん看護学会学術集会, 2012.02

〔図書〕(計 3 件)

Asmussenn 著、只浦寛子監訳:キネステティック入門、東京中央出版, 2015

只浦寛子:第 4 章 各論:がん患者へのケアとエビデンス 2 . 患者の安楽の追究とエビデンス ポジショニング, 「がん看護」増刊号南江堂, 17(2), 281-284. 2012

只浦寛子, 徳永恵子:体位管理の基礎と実践 Chapter2 ポジショニング及びその関連事項の歴史的考察, 監修:田中マキ子「ポジショニング学」, 中山書店, 37-44, 2013.07

〔講演〕(計 10 件)

HTadaura:New innovation of nursing movement care, Nursing World Conference 2016, Dubai, 2016.10. (Invited)

只浦寛子:キネステティックによってドイツ・オーストリアの高齢者と看護師、介護士の QOL は高まる, 東京農工大学材料健康科学 3 周年記念, 2016.3

只浦寛子:いのちに触れるケアに存在するもの~可能性、創造性、調和と統合~, 第 8 回日本キネステティック研究会, 東京, 2015.10

只浦寛子:キネステティックの概念の理解~インタラクションについて学ぼう~, 日本キネステティック研究会・平成 27 年度自主学習支援プログラム, 2015.10

只浦寛子:キネステティック概念を用いた関節拘縮のアセスメントと体位変換方法の知恵と技, 日本キネステティック研究会・平成 27 年度自主学習支援プログラム, 2015.10

三浦愛香、只浦寛子:キネステティック概念に関する研究レビュー(入門編) ~キネステティック研究を志す人たちのために~, 日本キネステティック研究会・平成 27 年度自主学習支援プログラム, 2015.10

只浦寛子:キネステティックと痛みの減少~痛

みの減少をもたらすメカニズム~, 第 4 回日本キネステティック研究会, 仙台, 2013.11

只浦寛子:キネステティックがなぜ介助する側、介助される側、双方に安楽なのか」 - キネステティック概念を応用した Mobilization とその Kinesthesia のヒミツを紐解く, 第 5 回日本キネステティック研究会, 京都, 2012.10

只浦寛子, 徳永恵子:キネステティック実践講座 廃用症候群としての褥瘡ケアに生かすキネステティック:第 14 回日本褥瘡学会学術集会, パシフィコ横浜, 2012.09

徳永恵子, 只浦寛子:キネステティックの基礎理解(招待講演), 第 22 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 2012.05

〔大学講義、公開講義〕(計 11 件)

只浦寛子:新設科目「感覚運動看護学」設立(平成 27 年度~現在に至る)

只浦寛子:感覚運動看護学~プロセスの時代:可能性、創造性、調和と統合~, 群馬大学大学院保健学研究科看護学専攻・看護学特別セミナー, 2016.5

只浦寛子:感覚運動看護学講義・演習, 群馬大学大学院保健学研究科慢性看護学特論 CNS コース, 2016.5

只浦寛子ほか:平成 27 年度後期国際医療福祉大学大学院公開講座乃木坂スクール「キネオロジー看護、介護実践講座」, 2015.10~12

只浦寛子ほか:平成 27 年度前期国際医療福祉大学大学院前期公開講座乃木坂スクール「いのちを輝かせるケアと科学的メカニズムを学ぶサイエンス実践講座」, 2015.8

只浦寛子:キネステティック小講座「サイバネティクス, 効果, エビデンス」:国際キネステティック研究教育推進本部, 2014.03

只浦寛子:キネステティック小講座「マスとつなぎと拘縮」:国際キネステティック研究教育推進本部, 2014.01

只浦寛子:キネステティック小講座「基礎知識」:国際キネステティック研究教育推進本部, 2013.12

只浦寛子:からだの不思議 ~自分を知るとは相手を理解すること~:宮城大学移動開放講座, 宮城県大崎市, 2013.11

只浦寛子:動きと感覚とコミュニケーションの不思議:宮城県石巻高等学校, 2012.10

只浦寛子：キネステティックによる動きと感覚のコミュニケーション～体験して学ぼう！赤ちゃんや高齢者とのコミュニケーション，ケアの知恵～：宮城大学移動開放講座（宮城県大崎市），2012.07

〔受賞〕

HTadaura：Self-Care Dependent-Care Nursing: IOS New Scholar Award:Hiroko Tadaura, PhD, RN, PHN, CDEJ (International Orem Society ,USA) Volume21, No.A, Fall 2014.

〔その他〕

(1)ホームページ等

<http://tadaura-lab.com/>

<http://hirokotadaura.com/>

(2)メディア等

Prof. Hiroko Tadaura, Japanische

Wissenschaftlerin besuchte

Kinaesthetics-Kurs, Absberg, Rebens

Wagner (Germany), 2016

<http://regens-wagner-absberg.de/hp2806/>

Japanische-Wissenschaftlerin-besuchte-K

inaesthetics-Kurs.htm

(3)国際社会活動

只浦寛子：客員上級研究員，ヴィッテン・ヘアデッケ大学看護学部，ドイツ，2012-2015

只浦寛子：非営利団体ヨーロッパキネステティック協会ドイツ支部アジア・日本人初の正式メンバー，2016.3(ドイツ)

只浦寛子：非営利団体ヨーロッパキネステティック協会とキネステティック教育・研究教育連携の継続提携，2016.3(スイス、ドイツ)

只浦寛子：運動と神経メカニズムの小講義，ドイツ高齢者・障害者施設キネステティックコース，2016.3(ドイツ)

(4)国内社会活動

只浦寛子(企画，司会)：フェルドマン、只浦寛子ほか：遷延性意識障害者のためのキネステティック入門セミナー，仙台，2015.8

只浦寛子(企画，座長)：フェルドマンほか：キネステティック特別講演，第17回日本褥瘡学会学術集会(仙台)，2015.8

只浦寛子(企画，座長)：フェルドマンほか：キネステティック実践セミナー，第17回日本褥瘡学会学術集会(仙台)，2015.8

只浦寛子(企画，通訳)：フェルドマンほか：キネステティック概念を応用した認知症高齢者への在宅看護，第17回日本褥瘡学会学術集会(仙台)，2015.8

只浦寛子(企画，講師)：国際キネステティック教育研究事業，仙台，2013-2014

6. 研究組織

(1)研究代表者

只浦 寛子 (TADAURA, Hiroko)

国際医療福祉大学大学院・教授

研究者番号：40363733

(2)研究協力者(国内)

永富良一 (NAGATOMI, Ryoichi)

東北大学医工学研究科・教授

研究者番号：20208028

門間晴樹 (MONMA, Haruki)

東北大学医工学研究科・助教

研究者番号：90633488

徳永恵子 (TOKUNAGA, Keiko)

宮城大学看護学研究科・名誉教授

研究者番号：80295378

榊久美子 (SAKAKI, Kumiko)

江戸川病院・看護師

鈴木初美 (Suzuki, Hatsumi)

江戸川病院・看護部長

三浦愛香 (Aika, Miura)

慶應義塾大学病院・看護師

(3)研究協力者(国外)

サビーネ・バトロメイテク

ヴィッテン/ヘアデッケ大学・教授

(ドイツ)

クリステル・ピーンシュタイン

ヴィッテン/ヘアデッケ大学・教授

(ドイツ)

ドイツ看護協会・会長

ノルベルト・フェルドマン

ヨーロッパキネステティック協会(ドイツ)

モニカ・フェルドマン

ヨーロッパキネステティック協会(ドイツ)

マーレン・アスムセン・クラウゼン

ヨーロッパキネステティック協会(ドイツ)

シュテファン・クノーベル

ヨーロッパキネステティック協会（スイス）

レーナ・ターミネン・ピーター
フィンランド エルゴノミック協会・会長
（フィンランド）